

2021.1.16 sat
at Tokyo Metropolitan Theatre
Concert Hall



Tokyo Kosei Wind Orchestra

Subscription
Concert

152th

Kentaro Kawase
conductor

Program | プログラム

「グレの歌」のモチーフによるファンファーレ [約1分半]

A.シェーンベルク

Fanfare on Motifs of Die Gurrelieder / Arnold Schönberg

吹奏楽のための「幻想曲」— アルノルト・シェーンベルク讃 [約4分半]

尾方凜斗

Fantasy for band, homage to Arnold Schönberg / Rinto Ogata

映画の一場面への伴奏音楽 [約9分]

A.シェーンベルク／大橋晃一 編

Accompaniment to a cinematographic scene (theatning danger, fear, catastrophe)op.34 / Arnold Schönberg

ミス・サイゴン(シンフォニック・ポートレイト) [約20分]

C.M.シェーンベルク／J.デ・メイ 編

Miss Saigon (A Symphonic Portrait) / Claude Michel Schönberg / arr. Johan de Meij

- 序曲～1975年4月、サイゴン Overture - Saigon, April 1975
- 我が心の夢 The Movie in my Mind
- ドラゴンの夜明け The Morning of the Dragon
- プリーズ Please
- 今も信じてるわ I Still Believe

休憩 [20分] Intermission

ラ・マルセイエーズ(フランス国歌) [約3分]

C.J.R.ド・リール／大橋晃一 編

La Marseillaise / Claude Joseph Rouget de Lisle / arr. Koichi Ohashi

「レ・ミゼラブル」セレクション [約40分]

C.M.シェーンベルク／大橋晃一 編

Selections from Boulblil and Schönberg's "Les Misérables" For Wind Orchestra / Claude Michel Schönberg / arr. Koichi Ohashi

- プロローグ Prologue
- 宿屋の主人 Master of the House
- 星よ Stars
- ワン・デイ・モア One Day More
- エピローグ Finale

！ 注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承下さい。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮下さい。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団オフィシャルサイト掲載の《【重要】感染症予防対策についての取り組みとお願い》をご覧ください。

本公演に関する
アンケートへ
ご協力ください。



Profile | 指揮者プロフィール

川瀬 賢太郎

Kentaro Kawase
conductor



©Yoshinori Kurosawa

1984年東京生まれ。私立八王子高等学校芸術コースを経て、2007年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)を卒業。これまでに指揮を広く上淳一、汐澤安彦、チョン・ミョンフンなどの各氏に師事。2006年10月に行われた東京国際音楽コンクール＜指揮＞において1位なしの2位(最高位)に入賞し、2007年3月には入賞者デビューコンサートで神奈川フィルハーモニー管弦楽団および大阪センチュリー交響楽団を指揮。

その後、東京交響楽団、読売日本交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団を始め、各地のオーケストラから次々に招きを受ける。2011年4月には名古屋フィルハーモニー交響楽団 指揮者に就任、意欲的な選曲と若さ溢れる指揮で聴衆を魅了。2014年4月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者に就任。卓越したプログラミングを躍動感あふれる演奏で聴衆に届けている。

海外においてもイル・ド・フランス国立オーケストラとの共演や、ユナイテッド・インストゥルメンツ・オヴ・ルシリンと共演。

オペラにおいても、細川俊夫作曲オペラ「班女」、細川俊夫作曲オペラ「リアの物語」、モーツァルト作曲オペラ「後宮からの逃走」、「フィガロの結婚」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「魔笛」、ヴェルディ作曲「アイダ」など目覚ましい活躍を遂げている。

2007年～2009年パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)アシスタント・コンダクター。

現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団正指揮者、神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢 常任客演指揮者、八王子ユースオーケストラ音楽監督、三重県いなべ市親善大使。2015年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第64回神奈川文化賞未来賞、2016年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回出光音楽賞、第65回横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師。

2人のシェーンベルク

今日は、血縁関係にある「2人」の作品(関連作含む)で構成された、吹奏楽だからこそ実現した、たいへんユニークなコンサートである。その「2人」とは——。

■ アルノルト・シェーンベルク (1874~1951/オーストリア)

アルノルト・シェーンベルク(以下AS)は、ウィーンの靴屋の家に、3人きょうだいの長男として生まれた。ユダヤ人の両親は音楽好きではあったが、家系にプロの音楽家はいない。幼少期よりヴァイオリンを習い、銀行員を経てアマチュア・オーケストラの団員になったら、その指揮者が作曲家のツェムリンスキーだった。ASは彼に私淑し、対位法を学んだ(のちに彼の妹と結婚し、義兄弟となる)。これが、生涯で唯一受けた「音楽教育」である。つまり彼は、まったくのたたき上げ作曲家なのだ。

ASは、作曲家としてよりも、音楽教師として、先に世に出た。その生徒から、のちに、大作曲家が2人、誕生する。ウェーベルンとベルクである。

やがて交響詩《ペレアスとメリザンド》、弦楽六重奏曲《浄められた夜》、超大作《グレの歌》などを発表する一方、先鋭的な弦楽四重奏曲や室内交響曲では、聴衆が騒ぎ出すなど、物議をかますようになる。

後半生は、彼のトレードマークともいえる「無調音楽」「12音技法」を確立。20世紀音楽史に特異な足跡を刻んだ。だが、ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害で、「退廃音楽家」に指定されたため、1933年、アメリカに亡命。以後は、南カリフォルニア大学で教鞭をとりながら、作曲をつづけた。結局、戦後もオーストリアへもどることはなく、ロサンジェルスで77歳の生涯を終えた。

なお、アメリカ時代の1942年に、唯一の吹奏楽曲《主題と変奏》Op.43bを書いている。

■ クロード＝ミシェル・シェーンベルク (1944~/フランス)

上記アルノルト・シェーンベルク(AS)の弟の孫が、このクロード＝ミシェル・シェーンベルク(以下CMS)である。つまり、ASは、大伯父(祖父の兄)になる。もちろん、CMSが生まれたころ、この大伯父はアメリカに亡命しており、その後も実際に会うことはなかった。だが、CMSの父親はピアノ調律師で、幼少期にはオペラに連れていかれたそうなので、ASよりは、はるかに音楽的環境のなかで成長したといえよう(この父親は、ナチス占領下のフランス・ブルターニュ地方で、レジスタンスとして活動していたという。ここからして後年の名作誕生の予感が漂っている)。

だが、CMSは、大伯父のようなクラシックの道へは進まなかった。若いころから地元ヴァンヌでロックバンドを組み、かなりの収入を得ていた。その人気ぶりにEMIレコードにスカウトされ、パリで活動を開始する。

1968年、ラジオで流れる少女アイドルの曲に、音楽出版社を経営するプロデューサー、アラン・ブーブリル(1941~)が興味をもった。さっそく作曲者に会う。それがCMSだった。お互い、ミュージカルに興味を持っていることがわかり、意気投合。特に《ジーザス・クライスト・スーパースター》に影響を受け、史実のミュージカル化を目指す。そして1973年、フランス初のロック・オペラ《フランス革命》を、2枚組アルバムとして発売。35万枚超の大ヒットとなる。このアルバムは、すぐに舞台化され、これも大成功。

かくしてこのフランス人コンビは、以後、パリ7月革命を舞台とした《レ・ミゼラブル》(1980)、ベトナム戦争に材を得た《ミス・サイゴン》(1989)などを発表。大ヒット・メーカーとなるのである。

A.シェーンベルク

「グレの歌」のモチーフによるファンファーレ

シェーンベルク(AS)といえば、難解な現代音楽ばかり書いたような先入観がある。だが、有名な「12音技法」を正式に宣言したのは、1923年、49歳の年である(彼は77歳まで生きた)。それまでの多くは、敬愛したマーラーのような濃厚な楽曲を書いていたのである。本曲の源泉となった《グレの歌》もその一つで、1913年、39歳の年にウィーンで初演され、大成功をおさめた。

これは、デンマークの作家、ヤコブセンの詩をもとに、独唱歌手5人+男声4部合唱3群+混成8部合唱+巨大管弦楽(たとえばピッコロ4、トランペット6、ホルン10等々)のために書かれた、カンタータともオラトリオともオペラともつかない、超ド級の大作である。演奏時間は約2時間、フルスコアは53段にも達する。

アメリカに亡命したASに、1945年、アメリカ楽壇のボスの指揮者、ストコフスキーから、ハリウッド・ボウル(約17,000席の野外音楽堂)でのコンサート用に、オープニング・ファンファーレの委嘱がくる。さっそくASは、《グレの歌》の第3部から、〈家来招集〉〈夜間騎行〉〈日の出〉の3つのモチーフを素材に、金管アンサンブルと打楽器群のためのファンファーレを構想する。だが、当時ASは健康を害しており、結局、この曲は完成せず、初演されなかった(全46小節中、31小節で中断)。その後、遺されたスケッチなどをもとに、ASの助手、レナード・ステイン(1916~2004)によって補筆完成され、1977年2月、かつて勤務した南カリフォルニア大学のウインド・アンサンブルによって初演された。

尾方凛斗

吹奏楽のための「幻想曲」— アルノルト・シェーンベルク讃

2020年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲V。第12回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール第1位受賞(なお、2020年度のコンクールは中止になったので、そのまま2021年度用になった)。

曲名から察せられるように、シェーンベルク(AS)の《ピアノ伴奏によるヴァイオリンのための幻想曲》Op.47がもとになっている。逝去2年前の1949年、ロサンジェルスにおけるASの75歳の誕生日を記念した演奏会で初演された。約10分、単一楽章の曲だが、AS自身が「演奏困難な曲です」と述べている、「12音技法」全開の難曲である。

この課題曲は、そんな難曲を素材にしており、作曲者は「その音列を私なりの方法で運用した、繊細で流動的なテクスチャを特徴とする前半部と、力強い律動を含有する行進曲の様式に音列が搭載される後半部の2部で構成されている」と述べている。全編に変拍子、特殊奏法が使用され、楽器編成も課題曲としては最大規模。フルート、オーボエ、バスーンなどは2番まで指定されている。

作曲者は、1995年生まれ、徳島県出身。日本大学芸術学部を経て、東京音楽大学大学院作曲指揮専攻作曲研究領域に在籍している。

A.シェーンベルク/大橋晃一 編

映画の一場面への伴奏音楽

映画がサイレントからトーキーになった第1号は、アメリカ映画『ジャズ・シンガー』(1927)だが、当初は音声技術が稚拙だったうえ、観客も、長年、弁士や楽団のナマ演奏付きサイレント映画に慣れていたため、しばらくは、サイレントとトーキーが混在する時代がつづいた(たとえばパントマイムの芸術性を重視していたチャップリンが、初めて完全トーキーで製作した『独裁者』は、1940年の公開である)。

そんなトーキー最初期の1929年、ドイツの楽譜出版社・ハインリヒスホーフェン社から、シェーンベルク(AS)に、サイレント映画の伴奏音楽の作曲依頼がくる。もちろん、すでに「12音技法」を発表していた作曲家に、娯楽映画の

音楽を期待していたとは思えず、おそらく、なにかの記念のために委嘱されたと考えられている。曲は、娯楽映画の基本ともいえる「迫りくる危機」「破局」「不安」の3つの要素を描いた管弦楽曲。初演は1930年、かのオットー・クレンペラー指揮、ベルリン・クロル歌劇場管弦楽団。ASが考えていた映画音楽とは、どういふものなのか、考えさせられる楽曲である。本日は、おなじみ大橋晃一による新編曲で演奏される。

C.M.シェーンベルク／J.デ・メイ 編

ミス・サイゴン(シンフォニック・ポートレート)

クロード＝ミシェル・シェーンベルク(CMS／作曲・脚本)と、アラン・ブーブリル(詞・脚本)により、《レ・ミゼラブル》の9年後、1989年9月に、ウエスト・エンド(ロンドン)のドルリー・リーン劇場で初演されたミュージカル。このコンビによる第3作にあたる。1991年4月にニューヨークのブロードウェイ劇場に進出。日本版初演は1992年4月、東京・帝国劇場にて。

内容は、《蝶々夫人》を、ベトナム戦争に置き換えた悲恋物語である。

ベトナム戦争末期の1975年、陥落寸前のサイゴンが舞台。疲れきった米兵クリスと、売春宿で働く17歳のベトナム人少女キムは恋に落ちる。やがてサイゴン解放の大混乱で、2人は引き裂かれる(クリスがサイゴンを脱出するシーンでは、舞台上に実物大のヘリコプターが登場した)。その後、クリスは帰国して、アメリカ人女性と結婚。だが、そのころキムは、クリスとの間に生れた男の子を育てながら、いつか彼が自分を迎えに来てくれるものと信じ、ひたすら待っていた。そして、キムの生存を知らされたクリスは、彼女に会うために逃亡先のバンコクへ向かうのだが……。

全編を覆う、美しすぎるメロディと、健気で哀れなキム、そして目を奪うステージ上の大仕掛け。特にホー・チ・ミンの巨大な銅像や、上空から降りてくる実物大のヘリコプター(新演出版は、映像との合成)など、見所満載のミュージカルとなっていた。日本版では、アイドル歌手だった故・本田美奈子がキムを熱演し、ミュージカル女優への転身を成功させたことも話題となった。

日本の吹奏楽界では2002年ころからコンクールなどでも演奏されるようになり、内外で多くのアレンジが発表されている。本日は、交響曲第1番《指輪物語》などで知られるオランダの作曲家、ヨハン・デ＝メイ(1953～)による編曲譜で演奏される。全体は、以下の5曲で構成されている。

- 序曲～1975年4月、サイゴン / Overture – Saigon, April 1975
- 我が心の夢 / The Movie in my Mind (ジジ、キムほか)
- ドラゴンの夜明け / The Morning of the Dragon (エンジニア、トゥイほか)
- プリーズ / Please (ジョン、キム)※本曲は、新演出版では、ほぼ同じメロディの“Too Much For One Heart”に改稿。
- 今も信じてるわ / I Still Believe (キム、エレン)

C.J.R.ド・リール／大橋晃一 編

ラ・マルセイエーズ(フランス国歌)

演奏時間は短い、長期間の劇的ドラマを経て生まれた楽曲である(通常、ワンコーラス1分前後だが、ベルリオーズ編は約9分)。

1789年、バスチーユ監獄の占領で本格化したフランス革命は、宮廷貴族たちを震え上がらせた。彼らは周辺列強国へ助力を乞い、革命勢力と闘うように仕向けた。さっそくオーストリアが反応し、両国間の緊張は頂点に達する。特に、ライン河に接する国境の町ストラスブールには、フランスのライン軍が集結し、一触即発の状態が続いていた。そこでディートリヒ市長は、新しい軍歌をつくって、士気を鼓舞させようとする。たまたまこの町に駐屯していた工兵大尉のクロード・ヨゼフ・ルジェ・ド・リール(1760～1836)が、詩や音楽をこなすというので、彼に委嘱の命が下った。

1792年4月25日深夜、ド・リールは、得意のヴァイオリンで音を取りながら、一晩で新曲《ライン軍のための軍歌》を書き上げる。翌日、それを聴いた市長は大興奮し、すぐに楽譜を印刷させ、混乱下のフランス全土に送られた。

6月、南仏のモンペリエで、一人の青年が野外楽団の演奏するこの《軍歌》を聴いて感動する。彼は革命政治団体に加盟しており、マルセイユ支部と交流があった。そのマルセイユから、革命義勇軍を編成し、パリへ向かうことになった。青年も、モンペリエから参加した。500人以上に膨れ上がった義勇軍は、青年に教わった《軍歌》を歌いながら、パリまで800キロの行軍をおこなった。途中の土地でも《軍歌》は大人気となり、パリに到着したときには、市民とともに「武器をとれ! 市民よ進め!」と大合唱になった。パリ市民にとっては、「マルセイユ義勇軍が歌っていた曲」なので、以後、本曲は、《ラ・マルセイエーズ》(マルセイユ人の歌)として愛唱されるようになった。

1795年には国民公会でフランス国歌に制定。旋律や詩は少しずつ変化したが、市民に戦いを呼びかける精神だけは、現在もそのままである。ただし、「血まみれの軍旗を掲げよ」「汚れた血は大地に吸わせる」など、驚くほど過激な詩で、古くから、温厚な表現に変えるべきとの議論があり、子供用の詩が別途つくられている。

なお、この国歌は、1804年に皇帝についたナポレオンが、「暴君を倒せ」の詩をお気に召さず、公式国歌からはずされた。それが復活するのは1830年の7月革命だったが、ちょうど、そのころにパリで起きた出来事を描いた群像劇が、次に演奏される《レ・ミゼラブル》である。

C.M.シェーンベルク／大橋晃一 編

「レ・ミゼラブル」セレクション

先述のように、1973年のロック・オペラ《フランス革命》は、大ヒットとなった。クロード＝ミシェル・シェーンベルク(CMS)とアラン・ブーブリルは、この路線をさらに推し進め、フランスの国民作家、ヴィクトル・ユゴー(1802～1885)の名作小説『レ・ミゼラブル』(旧邦題『あゝ無情』)のミュージカル化に着手する。まずは前作同様、先行アルバムを1980年に発売。これまた26万枚超の大ヒットとなり、すぐにパリで舞台化、3カ月で50万人超を動員した(ただし、これは現行版とはちがう、原型ともいえる内容)。

この舞台を、《キャッツ》《オペラ座の怪人》のイギリス人プロデューサー、キャメロン・マッキントッシュが観て、改訂のうえ英語版にすることを提案。作品は全面的に生まれ変わり、1985年10月、バービカン・センター(ロンドン)で初演。1987年3月には、ニューヨークのブロードウェイ劇場に進出。日本版初演は1987年6月、東京・帝国劇場にて。

物語は、ほぼユゴーの原作小説どおり。1800年代、ナポレオン失脚を経て、ふたたび王朝時代となったフランス。19年間の獄中生活を終えて出獄したジャン・バルジャンは、改心し、市長となる。そんな彼の人生を軸に、貧困生活に苦しむ庶民や、彼を追う警部ジャベール、革命を目指す学生や若者たちなどが交錯する約20年間を描いた、壮大な物語である。

長大で複雑な原作を(岩波文庫で全4冊、約2,500頁)、見事に圧縮。ユゴーが描いた「理想社会」「改心」「貧困」「復讐」といったモチーフもすべて盛り込まれていた。むかしから、ミュージカルは群像劇は苦手、登場人物は少数に絞るものとされてきたが、その常識を打ち破り、美しく、かつ迫力ある旋律に彩られた、まさに奇跡の“群像劇ミュージカル”となった。特に、革命を推進する《民衆の歌》や《ワン・デイ・モア》、巨大なバリケードを挟んでの銃撃戦シーンなどが注目を浴びた(新演出版では映像が多用され、セッとは縮小された)。

日本の吹奏楽界では、2013年ころから演奏され始め、これまた内外で多くの編曲譜が出ている。本日は、これも前曲につづいて大橋晃一による、TKWOのための新編曲初演で、下記5曲で構成される予定。

- プロローグ / Overture～Work Song ほか
- 宿屋の主人 / Master of the House (テナルディエ夫妻ほか)
- 星よ / Stars (ジャベール)
- ワン・デイ・モア / One Day More (カンパニー)
- エピローグ / Finale (カンパニー)

〈敬称略〉

Profile | 楽団プロフィール



©Atsushi Yokota

東京佼成ウインドオーケストラ Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

Members | 演奏者名簿

桂冠指揮者……………フレデリック・フェネル
正指揮者……………大井剛史
特別客演指揮者………トーマス・ザンデルリンク

首席客演指揮者……………飯森範親
ポップス・ディレクター……………藤野浩一

指揮……………川瀬賢太郎
演奏……………東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo……………丸田悠太
Flutes……………前田綾子、白石法久
Oboes……………宮村和宏^{*}、上原朋子
English Horn……………桜田昌子
Bassoons……………福井弘康、田吉佑久子
Clarinet in E b……………松生知子
Clarinet in B b……………小倉清澄、大浦綾子、林裕子、
太田友香^{*}、亀居優斗、北岡羽衣、
徳武敦、野田祐太郎、福井萌
Alto Clarinet……………瀧本千晶
Bass Clarinet……………有馬理絵^{*}
Contra Bass Clarinet……………原浩介
Alto Saxophones……………田中靖人(Soprano Saxophone)^{*}、
林田祐和、神保佳祐
Tenor Saxophone……………松井宏幸
Baritone Saxophone……………栃尾克樹

Trumpets……………奥山泰三、ガルシア安藤真美子、
本間千也^{*}、河原史弥、
関間健太、川村大
Horns……………上原宏、堀風翔^{*}、小助川大河、
中上玲、端山隆太
Tenor Trombones……………今村岳志^{*}、石村源海、越智大輔
Bass Trombone……………佐藤敬一郎
Euphoniums……………岩黒綾乃、齋藤充
Tubas……………近藤陽一、林裕人
Contrabasses……………前田芳彰、鈴木陽子
Timpani……………坂本雄希^{*}
Percussion……………秋田孝訓、渡辺壮、和田光世、
久米彩音、市東章代、藤井里佳、
堀正明
Harp……………三浦麻葉
Piano……………森田由子
Celesta……………越田美和(Synthesizer)

(※＝演奏委員)

名誉楽団長……………庭野光祥
楽団長……………林總太郎
佼成文化協会長……………菅野泰正
コンサートマスター……………田中靖人
副コンサートマスター……………宮村和宏
インスペクター……………堀風翔
企画委員……………原浩介

マネージャー……………遠藤敏、井小萩浩之
ステージマネージャー……………今井慎吾、勝川本久
ライブラリアン……………羽田紀子
制作……………久保慶恵
パーソナルマネージャー……………富田真里那
総務……………牧野正純、佐原由起、勝川本久
広報……………遠藤敏、荻沼美帆、今村俊博
チケットサービス……………荻沼美帆
庶務……………出塚和良、小野寺龍一、石川済
経理……………水本孝枝

Gold Members サポーターズクラブゴールド会員(3口以上)の皆さま

中江 亮	五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2020年12月31日現在)
平山 博通	望月 良貴
ピロッタ 真緒	横田 陽一

PR Supporters PRサポーターの皆さま

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

店舗等一覧

敬称略で掲載させていただいております。(2020年12月31日現在)

アルル音楽教室	(株)池袋音楽学院
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター	(株)CAFUAレコード
ブレーン(株) 広島本社	吹奏楽webマガジン「Band Power」
ブレーン(株) 東京支社	吹奏楽専門ショップ「Band Power」
(株)管楽器専門店ダク	大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
ミュージックスクール「ダ・カーポ」	ドレミファクトリー
(株)セントラル楽器	フルート専門店テオバルト
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎	アトリエ・エム株式会社
管楽器雑貨専門店pitch	イシバシ楽器 横浜店
ザ クラリネット ショップ	フォルテ・オクターヴハウス
新潮講座・神楽坂教室	葡萄房 by THE CAMEL
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京	やしろ食堂
(株)永江楽器水戸	吹奏楽酒場「宝島。」
野中貿易(株)	金寿司
(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店	フローリスト花六
宮地楽器 小金井店 ANNEX	中華 大栴

個人のお客様

渡邊 直子	樫野 哲也
-------	-------

PR
サポーター
とは？

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)
ご協力頂ける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・公式サイトに掲載させていただきます。

TKWO オリジナルグッズ好評販売中！

Original goods

ほかにも多くの商品をご用意しております。
ご購入・詳細はこちら



60周年記念グッズ



チケットホルダー

1冊 800円



ステッカー

1枚 100円



アクリルキーホルダー

1個 300円(全39種)

新商品
登場！

※ランダム封入、商品の交換はできません。
※個別販売はしていません。イラストは選べません。

Tokyo Kosei Wind Orchestra



会員募集中

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)はあなたのウインドオーケストラです!!
TKWOをもっと身近に感じて応援する仲間になりませんか？
サポーターズクラブに入会して、もっとTKWOの音楽を
より多くの皆さんに届けられるように活動を支えてください！



詳細はこちら

刊行決定!

東京佼成 ウインドオーケストラ 60年史

◆定価：2500円(予価) ◆発行：株式会社新潮社図書編集室

2021年2月、全国大型書店、TKWO事務局などで発売予定。

「東京佼成ウインドオーケストラ」(TKWO)は、
1960(昭和35)年5月に、「15名」のメンバーによって結成されました。
その日から、早や60年、TKWOは、日本の吹奏楽界をリードする
プロ吹奏楽団として多くのファンを生んでいます。
その60年の日々をご紹介する記念書籍が発刊されます。
全定期演奏会の内容、地方公演も含めた全活動記録、委嘱作品、
さらには膨大なレコーディング・データ、
創設時の意外な裏話を取材したドキュメントなど、豊富な内容となっています。
どうぞ、お楽しみに、お待ちしております。



結成3年目、第1回定期演奏会の模様。1963(昭和38)年3月10日、杉並公会堂にて。指揮は、創設者のひとり、河野貢造・副楽長。
この日は、ロッシニ「セビリヤの理髪師」序曲、チャイコフスキー《スラブ行進曲》などが演奏された。

東京佼成ウインドオーケストラ Presents

課題曲コンサート 2021 ~往年の名曲とともに~



2021

2.16

TUE

開演:19:00
(開場:18:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 TEL:03-5391-2111(代表)

指揮:大井剛史(正指揮者)

演奏:東京佼成ウインドオーケストラ

Program

吹奏楽の為の序曲/坂田雅弘(2000年度)

2021年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲(全曲)

- I トイズ・パレード/平山雄一(第30回朝日作曲賞)
- II 龍潭譚/佐藤信人
- III 僕らのインベンション/宮川彬良(委嘱作品)
- IV 吹奏楽のための「エール・マーチ」/宮下秀樹
- V 吹奏楽のための「幻想曲」
—アルノルト・シェンベルク讃
/尾方凜斗(第12回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール第1位)

~祝・アルフレッド・リード生誕100周年~

- 音楽祭のプレリュード/A.リード(1970年度)
- シンフォニック・プレリュード/A.リード(1965年度)

~みなさまのリクエストから~

- マーチ「プロヴァンスの風」/田坂直樹(2015年度)
- イリュージョン/鶴沢正晴(1981年度)
- 風紋/保科 洋(1987年度)

チケット料金 *全席指定・税込

一般 ¥3,000 / 学生(高校生以下) ¥2,000

※本公演は、お客様側で座席選択はできません。((1階)もしくは「2階・3階」のエリア選択は可能)

2021-2022

定期演奏会スケジュール

第153～157回 定期演奏会

- ▶ 場所：東京芸術劇場コンサートホール
- ▶ 開演：14:00(開場:13:00)

第153回 定期演奏会

2021年 4月29日(木祝)
指揮：ユベール・スダーン



- 13管楽器のためのセレナード 変ホ長調 作品7 / R.シュトラウス
- アルプスの詩 / F.チェザリーニ
- 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」 / R.シュトラウス
- 歌劇「薔薇の騎士」組曲 / R.シュトラウス

第154回 定期演奏会

2021年 6月5日(土)
指揮：原田慶太楼



- フローレンティナー・マーチ / J.フチーク
- 吹奏楽のための抒情的「祭」 / 伊藤康英
- 「指輪物語」より I・III / J.デ・メイ
- ブルーシェイズ / F.ティゲリ
- 古いアメリカ舞曲による組曲 / R.R.ベネット
- ウェディング・ダンス / J.プレス
- イエ・パンクスとボニー・ドゥーの川のほとり / P.グレインジャー
- 行進曲「ローリング・サンダー」 / H.フィルモア

第155回 定期演奏会

2021年 9月23日(木祝)
指揮：大井剛史(正指揮者)



- 主題と変奏 / A.シェーンベルク
- 交響曲 第3番 / V.ジャンニーニ
- パッサカリア / A.リード
- 交響曲 第3番 / A.リード

第156回 定期演奏会

2021年 11月23日(火祝)
指揮・クラリネット：ポール・メイエ



- クラリネットのための軍隊協奏曲 / C.ベールマン
- クラリネットのための第1狂詩曲 / C.ドビュッシー
- 交響曲 第3番 オルガン付き / C.サン・サーンス 他

第6回 大阪定期演奏会

2021年 11月24日(水)
指揮・クラリネット：ポール・メイエ

- 場所：ザ・シンフォニーホール
- 開演：19:00(開場:18:00)
- ※曲目・出演者は第156回と共通

第157回 定期演奏会

2022年 2月26日(土)
指揮：飯森範親(首席客演指揮者)



- 献呈序曲 / C.ウィリアムズ
- アルメニアン・ダンス Part I, II / A.リード
- TKWO委嘱作品(世界初演) / 長生 淳
- 交響曲 第1番「アークエンジェルズ」 / F.チェザリーニ

定期会員券販売スケジュール

会員先行発売 ▶ 2021年2月3日(水)

※定期会員・サポーターズクラブ会員対象

一般発売 ▶ 2021年2月10日(水)

※新シーズンでは、一部、左右空席を設けた座席を販売いたします。
※1回券は各公演の約2か月前に販売いたします。
※詳細はオフィシャルサイトをご確認ください。

主催

佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ

後援

一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

株式会社日本コロムビア

株式会社テレビマンユニオン

公益財団法人としま未来文化財団

<https://www.tkwo.jp/>

